

## 第2回図書館懇談会で挙げられた主な意見について

### ◎図書館について

- ・ 多大な費用を要する事業であり、このように町で多大な費用をかけることに不安を感じている人は多い。
- ・ 図書館の理想については納得しているが、補助金だよりで財政を考えれば、苦しいのではないかと。将来世代の負担になることを危惧している人は多い。
- ・ 図書館を建てるなというより、将来の禍根とならないようにしてほしい。
  
- ・ 図書館は子どもたちの未来に対する投資である。図書館があるせいでダメになった自治体はない。わざわざ遠くの町にいかず、自分の町で勉強できればいいのにそれができないから他所の町へ行く。
- ・ 県内に図書館がないのは益子だけ。子育て世代としては、子どもたちに誇れる夢のある図書館、町づくりの核になるような図書館がほしい。
- ・ 町は少子化対策を重視する方針。子育てにおいて図書館が果たす役割は大きい。
- ・ 町内経済の循環には、町内消費を増やすことが重要。図書館は町の魅力の一つとなる。真岡に新しい図書館が出来る。みんなワクワクしている。真岡の図書館に行き、真岡で買い物してくる。そうではなく、益子町で人を集められる良い図書館になってほしい。
- ・ 図書室をつぎ足したようなものではなく、インパクトのある施設をつくってほしい。
- ・ 図書館は子どもたちだけでなく、自分の時間が使えるようになった人たちにとっても価値ある施設。子どもだけでなく、多くの人が集まる施設をつくることは町づくりにとって無意味ではない。
- ・ 人口減少が進んでいる社会においては、50年後を見据えた施設整備を進める必要がある。50年後の益子の人口はどれほどのものかを考え、現状に即したものをつくってほしい。
- ・ 子どもを育てる上では、図書館のない町というのは残念と言わざるを得ない。移住を考える方に魅力のない町とおもわれてしまう。

## ◎場所について

- ・ 公民館はすでに多数の利用者がある施設。そこに来館者目標16万人の図書館が整備されるとして、目標値に近い数値の来館があるとしたら、町民センターの駐車場はキャパシティが不足している。図書館専用の駐車場をつくるとしても、別の自治体の事例では、隣接施設でイベント時、図書館駐車場にも止められてしまうということもあり、益子町においても想定される事態である。
- ・ 町民センターに出来た場合、駐車場の確保について慎重に考えていただきたい。
- ・ 公民館駐車場は、現在でもイベント時には満車。また、中学校の通学路と入口が重なる、緊急車両が通るには狭い等の不安がある。
- ・ 増改築の場合、新しく駐車場を用意する必要があるが、その計画はまだされておらず、予算に含まれていない。その段階で公平な比較はできない。
  
- ・ 駐車場が広く、公民館、体育館、学校の近さから利用者が見込めるので、公民館に増改築がいい。水害が心配な区画整理地内に対し、公民館の場所なら高台で防災拠点にもなる。
- ・ A案は百目鬼川付近であり、浸水する恐れがある。可能性があるならば、公民館のほうが良いのではないか。
- ・ 増改築だと、中学校の送迎のついでに利用できる。近隣に問題がある団体などが来る心配もない。区画整理地内では子どもだけで移動することになり、事故や犯罪が心配。
  
- ・ 増改築の場合でも、区画整理地内の土地は購入すると聞いた。それなら、そこに新しい図書館を建てたほうが、費用対効果が見込める。
- ・ 増改築では、もともとの町民センターのコンセプトが異なるので、魅力あるものにできるか心配。
- ・ 新築の方が、学校の先生も生徒たちへの誘い文句にしやすい、インパクトがある。費用対効果が上がるし、子育て支援も真剣みが出る。
- ・ B案は、図書館の候補地が公民館の南側なら、正面から見たとき、公民館としか認知されない。表から見えない施設で、本当に16万人の目標を達成し得る図書館をつくるのが出来るのか疑問。
  
- ・ 駐車場の確保の点から、区画整理地内に予算を半分程度に抑えての新築がいい。

## ◎司書について

- ・ さまざまな図書館を視察してきたが、館長や司書の重要性は明らかである。単に人件費を削減するということには反対。人材育成の観点から考えてほしい。
- ・ B案では、正職員を兼務とし、会計年度職員を8名で運営を行うとあるが、図書館は長い目で資料収集等を計画的に行う必要があるため、司書については、会計年度任用職員という立場ではなく、しっかりと専任の職員がいなければならない。人材面をおさなりにしないでほしい。
- ・ よい図書館には司書の充実が必須だが、増改築案では兼務により人件費削減を図るとあり、優秀な人材の確保が難しいと思う。
- ・ 非正規職員の司書は、長期雇用やモチベーション維持が全国的な問題となっている。

## ◎費用について

- ・ 区画整理事業で町が保留地を購入する必要があるなら、B案においても保留地購入費用を入れる必要があるのではないか。土地購入にA案では補助金を使える。B案では補助金は使えないというメリット・デメリットがある。
- ・ 新築と増改築の場合の予算の概算を見ると、それほど差がない。この程度の差なら、新築の方が費用対効果はいいのでは。
- ・ 道の駅に比べ、建設費が高額。5～6億に抑えられないか。

## ◎検討期間について

- ・ 今年度中に場所を決定するということが、長い時間をかけて決めてきたことを覆すかもしれない検討を行うには、検討期間が短すぎる。
- ・ 増改築の話は、今年度急に出てきたもの。これまで重ねてきた話し合いに比べ、検討期間が短すぎる。もう少し慎重に考えてほしい。
- ・ 駐車場の改善見通しが立っていないなら、まだ比較検討の段階ではない。

## ◎電子図書について

- ・ 本を読むのが多いのは小中学生である。学校でタブレットを配ったなら、これで本を読める仕組み、電子図書の活用が効果的ではないか。
- ・ 遠くの地区に住んでいれば、自転車や徒歩ということはまず選択しにはない。電子図書館のようにタブレットをつかって利用できる形が必要なのではないか。

## ◎工事について

- ・ B案の増改築、長寿命化を行って、町民会館部分が R10年時点で40年、図書館部分が65年から、長寿命化して80年の耐用年数。町民会館の耐用期限がきた後、次に建物を整備するにあたり、図書館部分に建て増しするとすると、その部分が計画の自由度を阻害するのではないか。
- ・ 図書館を建て増し、現行町民センターが耐用期限を迎え、新しく整備したとして、また図書館部分だけ壊すというと、今後の町の公共施設整備において足かせとなるのではないか。
- ・ 長寿命化で80年使用できるようになる想定だが、増築部分と既存部分で耐用年数の差が出る。40年経過後、既存部分はどうなるのか。独立した建物にはできないか。
- ・ 町民会館も使い勝手の悪い部分があるので、建て替えも検討してほしい。
- ・ 増改築の場合、ホール等も工事期間は使えなくなるのか。コロナで使用できない期間もあったのに、さらに使えない期間が増えて思い出が作れなくなるのでは、子どもがかわいそう。
- ・ 木材を使用し、山林の管理につなげた道の駅のように、周囲に与える影響を長期的、総合的に考える必要がある。

## ◎移住定住施策について

- ・ 図書館と移住定住は関係ないことのように思われる。まわりに移住者もいるが図書館があるから、ないから、というようなことは聞いたこともない。